

# 群馬のグローバルチャレンジ：自然、伝統と現代社会

群馬大学オンラインサマープログラム 2021

## 募集要項

### 1. 目的

本プログラムは、本学交流協定校あるいは将来本学の協定校と成り得る機関（以下協定校等）に在籍する学部学生および大学院生を対象に、「コロナ禍」という厳しい時期を含め、群馬の地域社会における様々な取り組みと現状について、減災・防災、地域生活習慣、多文化共生という観点から、日本の現代地域社会の実態を学ぶための短期集中コースです。日本社会や日本文化の理解を深め、あわせて群馬大学への関心を高めてもらうことを目的として実施するものです。

### 2. プログラム概要

日本のほぼ中央に位置する群馬県は豊かな自然環境と独自の産業に恵まれています。しかし、自然災害、生活習慣病、多文化共生、伝統文化の伝承などの問題に直面しており、これらは、現代日本社会が抱えている問題でもあります。そのため、本プログラムでは、群馬の社会、人、自然、文化についての多面的な知識を学び、体験することを通して、現代日本社会の抱える課題とその解決策を多国から集まる参加者と共に議論します。

コース：英語による日本事情コース

本プログラムは、日本事情英語講義、プロジェクトワーク、プレゼンテーション、バーチャル国際交流活動を中心に実施します。また、日本人学生との交流の機会も用意しています。成果報告会ではプロジェクトワークの成果を報告します。プログラム修了者には修了証を発行します。

### 3. 参加方法

本コースは、ZOOM を用いた講義、ZOOM や Skype を用いた学生間の協働作業によって構成されます。

オンラインで実施するため上記のソフトウェアを使用できる環境が必要となります。

### 4. 参加資格・条件

- ◇ プログラム終了時まで群馬大学が指定する協定校等に在籍している学部学生又は大学院生
- ◇ 日本事情に興味、関心を持つ者（日本語の既習、未習を問わない）
- ◇ 英語による講義を理解でき、英語によるプロジェクトワークが遂行可能な者
- ◇ プログラムのすべての日程に参加できる者

### 5. 実施期間・定員・参加費

実施期間：2021年6月28日（月）から7月2日（金）まで（5日間）

定員：30名（5名以上で実施）

プログラム費不徴収

## 6. プログラム日程

※プログラムスケジュールは仮のものです。5月中旬に確定スケジュールを公表します。

群馬のグローバルチャレンジ：自然、伝統と現代社会					
	10:20-11:50	12:40-14:10	14:20-15:40	16:00-17:20	トピック
6月28日 (月)	ウェルカムメッセージ、 国際センター長、スタッ フ	オリエンテーション、講義 内容と活動の紹介	日本事情1：群馬の自然と 社会ー赤城山を中心にー	プロジェクトワーク1	自然と社会
6月29日 (火)	日本事情2：群馬の温泉町 と建築	日本事情3：日本の伝統演 劇ー群馬を超えてー	プロジェクトワーク2	学生交流(Showa English Cafeの活動の一環)	伝統と文化
6月30日 (水)	日本事情4：群馬にはなぜ 糖尿病が多いのか	日本事情 5：カイコ：日本 と群馬におけるこれまでの 歴史と将来の可能性	プロジェクトワーク3	学生交流 (Gunma University Global Café 中 之条ピエンナーレ)	現代社会
7月1日 (木)	日本事情6：日本の仏教美 術：十牛図の美術的、普 遍的、実践的解釈	休憩	プロジェクトワーク4：最終発表の準備		伝統と文化
7月2日 (金)	プログラムのまとめ	最終発表とフェルウェルパーティー			

- 1) プロジェクトワークは主にグループディスカッションの形で、毎日、受けていた講義の内容について議論し、内容、問題点および群馬社会に関する新たな認識についてグループでまとめる。
- 2) ファイナルプレゼンテーションでは、この一週間のプログラムを通して、群馬県のグローバルチャレンジや地域社会に関してどのような知見を得られたのかについてグループ発表を行う。プレゼンテーションはグループディスカッションの内容に基づく。

## 7. 応募方法等

応募方法：所属大学の担当窓口で別紙申請書を提出してください。所属大学の担当者がとりまとめて、群馬大学に申請書を提出します。

提出期限：2021年5月24日（月）

選考方法：先着順に採用します。

※なお、定員に達した場合、提出期限前に募集を締め切ります。

採用通知：採用者は、大学の協定校担当者に、群馬大学から2021年5月31日（月）までにお知らせします。

## 8. 群馬大学について

群馬大学は、東京の北西 100km に位置し、共同教育学部、情報学部(社会情報学部)、医学部、理工学部の各学部等から構成されています。現在、約 6,500 人の学生が在籍し、そのうち外国人留学生は約 250 人です。2019 年度は約 30 人が海外の協定校から半年間又は 1 年間留学しています。

## 9. 問い合わせ先

◇ （住所）〒371-8510 日本国群馬県前橋市荒牧町 4 - 2

群馬大学国際課（学務、手続き）池守善洋 IKEMORI Yoshihiro

◇ (電話) +81-27-220-7627 (FAX) +81-27-220-7630  
 (電子メール) g-exchange@jimu.gunma-u.ac.jp  
 (Web サイト) <http://www.guic.gunma-u.ac.jp/>

◆日本事情講義概要

タイトル	授業概要
担当講師	
群馬の自然と社会 —赤城山を中心に—  国際センター 陳雲蓮	赤城山は群馬県の中央に位置し前橋市内から一望できる雄大な山である。今は、前橋市の都市景観の象徴やレジャースポットとして人気が高いが、赤城山をめぐる信仰はかつて群馬県の人々の生活様式や年中行事を形成させた。赤城山信仰は現代の群馬社会において薄れつつあるが、その名残や記憶がまだ多くの群馬の人々の心や生活習慣の中に残っている。本講義は、赤城山を中心とした群馬県の自然環境と人々の生活との関係について探求する。
群馬の温泉町と建築  国際センター 陳雲蓮	日本の温泉に関して、これまで、源泉の成分や効力または湯治文化が注目されてきた。しかし、古くから、日本人は、温泉都市、温泉宿、異なる種類の入浴施設の設計に力を入れてきた。そこには、「水環境と都市・建築・人間」という大きなテーマが含まれている。本授業では、「温泉都市と建築」という観点から、多くの温泉資源を有する群馬県の温泉文化を探りたい。
日本の伝統演劇 ～群馬を越えて～  情報学部 (社会情報学部) 末松美知子	群馬県では江戸時代から農村で歌舞伎や人形芝居などの伝統演劇が盛んに上演され、その伝統が今も生きている。この講義では歌舞伎を取り上げ、群馬の庶民の娯楽としての村芝居から、群馬を越えた江戸の大歌舞伎、その進化系のスーパー歌舞伎、超歌舞伎などを取り上げ、歌舞伎と現代を生きる私たちの関係を探っていく。
群馬にはなぜ糖尿病が多いのか  医学部 鯉淵典之	糖尿病は、世界で最も一般的な生活習慣病の一つである。群馬には非常に豊かな自然と健康的な環境があるにもかかわらず、糖尿病患者数が他の地域よりもはるかに多い。普通、きれいな空気、水、自然は人々を健康にすると考えられる。しかし、群馬ではそうならない。本講義では、糖尿病をひきおこすメカニズムを簡単に説明し群馬に多くの糖尿病患者がいる理由の秘密を明らかにする。
カイコ： 日本と群馬におけるこれまでの 歴史と将来の可能性  理工学府 武田茂樹	カイコは昆虫の一種で蛹の段階で繭を作る。繭からは絹糸を作ることができる。日本は1900年代前半においては、世界一の絹生産国であった。また、21世紀になると、遺伝子組換えの技術により、新しい特徴をもった絹やさまざまな有用タンパク質を生産できるようになった。本講座では、カイコの特徴、群馬における絹の生産の歴史、遺伝子組換え技術のカイコへの応用、などについて紹介する。
日本の仏教美術：十牛図の 美術的、普遍的、実践的解釈 大学教育センター Sylvain Bergeron	「十牛図」を中心に、禅宗美術に関する多面的解釈について分析し、説明する。この不思議な十枚の絵図は、数世紀に渡って我々に禅の教えを伝え続けている。当該作品における宗教美術品としての特徴に触れたうえ、それぞれの絵に描かれている教えについて考える。それを通して、十牛図における普遍的(一つの宗教または信仰に限らない)、実践的、および不変のメッセージを理解する。